



2013年(平成25年) 8月25日 日曜日

経済4面 国際6面 読書11.12.13.14面 スポーツ20.21.22.23面 囲碁・将棋24面 教育26.27面 小説28面 生活28.31面/地域32面 TV・ラジオ24.25.36面

朝日新聞大阪本社 発行所:〒530-8211大阪市北区中之島2-3-18 電話:06-6231-0131 www.asahi.com

岸田一郎さんが艶男(アテオス)へ贈る オヤジのトキメキ 艶出し講座 朝日新聞デジタル[and] www.asahi.com/and\_M/

オピニオン・社説・声 8面 社説 秘密保全にひそむ闇/企業の世代交代 ザ・コラム 「だましだまし」の移民政策

脱原発 与野党とも揺るがず 9月に総選挙が行われるドイツでは、与野党とも「原発ゼロ」の方針は揺るぎない。電気料金は値上がりしているが、ドイツが優先する価値観とは何か。 3.6面

環境 日本の海 何かが起きている 北海道にマグロが押し寄せ、沖縄ではサンゴが死んだ。各地でシラスやイワシの不漁が続く。イベント中止に追い込まれた漁協も。海が、何だかおかしい。 35面

「パソコンの巨人」落日の時代 3面 月刊文化PLUS 変わる京料理 17面 日本柔道、発言力低下に危機感 22面 民俗学者・谷川健一さん死去 34面

「語彙・読解力検定」受け付け中 朝日新聞社とベネッセコーポレーションの「語彙・読解力検定」が受検申し込み受け付け中です。検定(個人受検)は11月17日(日)実施です。 ▼27面に特集

デジタル版 旅の終わりに 江木慎吾・機動特派員が「アフリカの風に吹かれて」を終えます。ネットを通じて旅の道連れになっていた皆さんの感謝しています。 http://t.asahi.com/c8cp

Weather forecast table for Osaka, Kyoto, etc. with temperature and precipitation data.

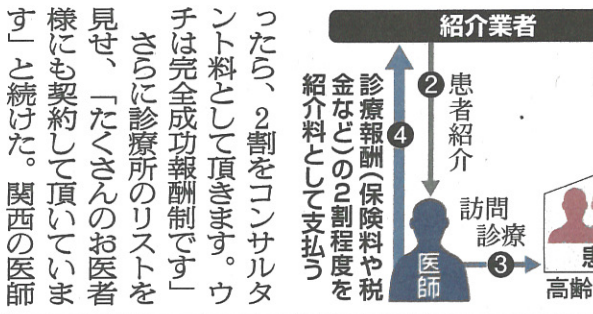
# 患者紹介ビジネス横行

## 高齢者施設の訪問診療

### 厚労省、規制を検討

高齢者施設で喜ぶ患者をまとめて紹介してもらい、見返りに診療報酬の一部を紹介業者に支払う医師が増えている。訪問診療の報酬が外来より高いことに着目した「患者紹介ビジネス」に加担している形だ。法令の規制はなく、厚生労働省は「患者を力ネで買うような行為は不適切」として規制の検討に乗り出した。

紹介業者は高齢者施設の患者を一挙に大量獲得し、訪問診療をする開業医に話を持ちかけることが多い。紹介料の相場は、患者1人あたり診療報酬(月約6万円)の2割だ。兵庫県の診療所。毎週金曜日、午前の診察が終わると、待合室で製薬会社や医



「収入(診療報酬)が入ります」と続けた。関西の医師

50人ほどの名がある。訪問診療をしている医師をインターネットで調べて営業していると明かした。1時間粘ったが、医師は断った。

厚労省は「今のところグレーゾーン。規制が入るかもしれない」と危機感を見せる一方、「いくらなら折り合えますか」「顔を見せ、たぐさんのお医者様にも契約して頂いてい

緊急時に患者の求めで往診とは異なり、医師が通院困難な患者が住む自宅や施設へ定期的に出向く診療。1人を診て得る訪問診療料は1回8300円。これに処方箋(せん)料や検査料などが上乗せされる。24時間体制の診療所から月2回以上訪問すると月4万2千円加算され、医師が得る合計は月6万円を超す。

ただ、紹介業者が20人を超えると、紹介料は1人2万円に上がると付け加えた。1回の訪問で診る患者が多いほど、効率良く診療報酬を得られるからだ。

ある医師は疑問を感じつつ、話に乗った。診療所を開いて数年。「患者を得るため業者を利用してしま

とも医師6人が業者と契約したことを認めた。紹介先はサービス付き高齢者住宅や有料老人ホームの入居者がほとんど。一度に多く診ることができるところだ。

# 「患者、金づるか」

高齢者施設で暮らす患者は、施設が薦める医師の診察を受けることが多い。患者紹介ビジネスに組み込まれて「売買」されているも、気づいていない人がほとんどだ。そればかりか、過剰な診療を受けたり、診療水準が落ちたりする恐れもある。

▼1面参照

「施設に入ると医師は決まっています。お願います。しかありませんでした」茨城県にある有料老人ホームに入所していた女性(82)の長女(55)は、3カ月前を振り返る。

医師は血圧と血糖値を測って「現状維持です」と伝えるだけで、母はほとんどやせた。家族が声をかけても母の反応はにぶくなっていった。長女は不安にかられ、2カ月後に施設を変えた。今は別の医師から丁寧な診察を受け、自分で食事をし、会話もできるようになった。

「いま考えれば、粗末な診療でした。私たちが払った医療費から紹介料が払われているのなら、許せません。いい金づるなんですよか」

通院することが難しい患者を月2回訪問したら、医

## 過剰診療・水準低下の恐れ

師が受け取る診療報酬は6万円を超える。外来の15倍だ。高齢者施設の30人をまとめた訪問すれば、月180万円が入る。業者はその2割程度を毎月、自動的に手に入れることができる。

東京都世田谷区の診療所には、3年前に紹介業者が訪ねてきた。「患者を紹介するので、料金を払って欲しい」。医師が医師仲間とメールで相談すると、仲間の診療所にも同じ業者が営業に来ていた。

厚生労働省にも複数の情報寄せられている。愛知県では、有料老人ホームの運営会社自体が、医師に入室を優先的に紹介する見返りとして診療報酬の20%の支払いを要求していたという。

NPO法人高齢社会をよくする女性の会・樋口恵子理事長は「高齢者や病人の人身売買だ。体が弱っていく時期に、営利だけを追求する人々の利権によって食い物にされるのかと思うと

### ◆「在宅医療サポートシステム」について

医療機関 ← 紹介料 / 会員紹介 → サポート機関 ← 診療報酬 → 弊社会員(患者)

★当社グループ関連会社での会員様  
全国で2万件の会員様から在宅医療を希望される方を弊社は医療機関に紹介しております。

## 報酬の2割程度 医師から業者へ

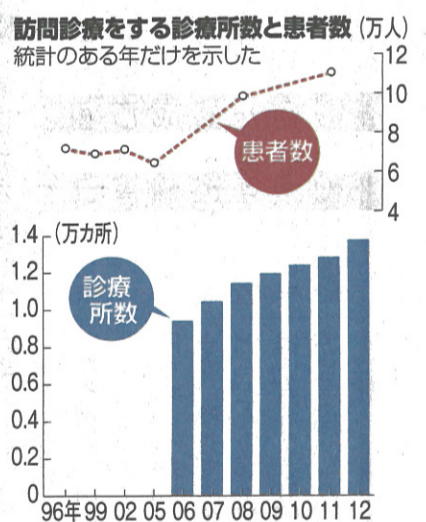
許せない」と憤る。

一方、紹介業者の多くは「うちだけでない。ほかもたくさんやっている」と言う。大阪府の業者は「医師の要望で始めた。医師支援の一環だ。我々も人件費などコストがかかっているの(紹介料を)もらっている」と反論した。

訪問診療には、通院できない患者が住み慣れた場所で安心して診察を受けることができるなどの利点もあり、誠実に向き合う医師は少なくない。

著書やテレビ出演、講演活動で知られる長尾和宏医師は、700人以上の患者を自宅で見とるなど在宅医療に取り組んできた。

「患者さんが住み慣れた地域で、最期まで自宅で穏やかに過ごせるように力を入れてきた。金もうけしか考えない業者や一部の医師によって在宅医療がおとしめられるのは悲しい」



定期的に患者のもとへ訪問して診察する新田国夫医師。誠実に取り組む医師は少なくない(写真と本文は関係ありません)

## 国の推進策につけ込み営業

患者紹介ビジネスが広がる土壌は、国が旗を振る社会保障政策によって作られた。その一つが高齢者施設の建設促進だ。

### 「患者奪い合い」

特別養護老人ホームは自治体の財政難で建設が進まず、高齢者施設は大きく不足。2011年、厚労省や国土交通省は「サービスタウン」制度を設け、規制をゆるめた。1年半で11万戸超が完成した。

サ高住はさほど重症ではない患者を一度に多く確保できる。ある紹介業者は「サ高住の患者は建設前から奪い合いだ」と明かす。兵庫県のサ高住は、通院できる要支援の患者を含む約30人全員に訪問診療を受

けさせている。全国在宅療養支援診療所連絡会の新田国夫会長は「介護度から見ると、サ高住の入居者で通院できないのは10%程度。過剰診療と考えるとおかしくない」と指摘する。

### 報酬は増額続き

もうひとつの要因は、国が訪問診療の報酬を次々に上げてきたことだ。

厚労省は高齢者の社会的入院を減らし、受け皿として訪問診療に着目。「住み慣れた地域で最期まで暮らし」ことを重点政策に掲げてきた。訪問診療を担う医師を増やすため、06年の診療報酬改定では、24時間体制で自宅や有料老人ホームなどへ往診する診療報酬を倍増。その後も2年に1回の改定ごとに増額し、訪問

診療にたずさわる診療所は7年間で1.4倍の約1万4千に増えた。巨額を投じて急速に進めた政策の「ゆがみ」を業者は狙ってくる。

厚労省の担当者として診療報酬改定にたずさわった中村秀一・医療介護福祉政策研究フォーラム理事長は「診療報酬だけで政策誘導するのは限界。行政は社会の変化についていけない」と指摘。「診療報酬を適切に運営するには、さまざまな問題を予防する規制や仕組み作りも同時に進めることが大切だ」と話す。

11年度の医療費は約38兆円。直近の5年間を見る限り、毎年7千億円から1兆4千億円増えている。

### 秋から改定論議

安倍内閣は今秋から診療報酬改定の議論を本格化させ、来年2月に決める予定だ。消費増税を視野に、医療・介護制度の議論も進む。21日には消費増税に伴う社会保障改革の手順を示すプログラム法案の骨子を閣議決定し、在宅医療を進めるのに必要な措置を17年度までに行うことを盛り込んだ。

その足元で、患者紹介ビジネスが横行している。厚労省も危機感を強めており、診療報酬改定に向けて規制のあり方が議論になるのは必至だ。(沢伸也、月鏡彩子)